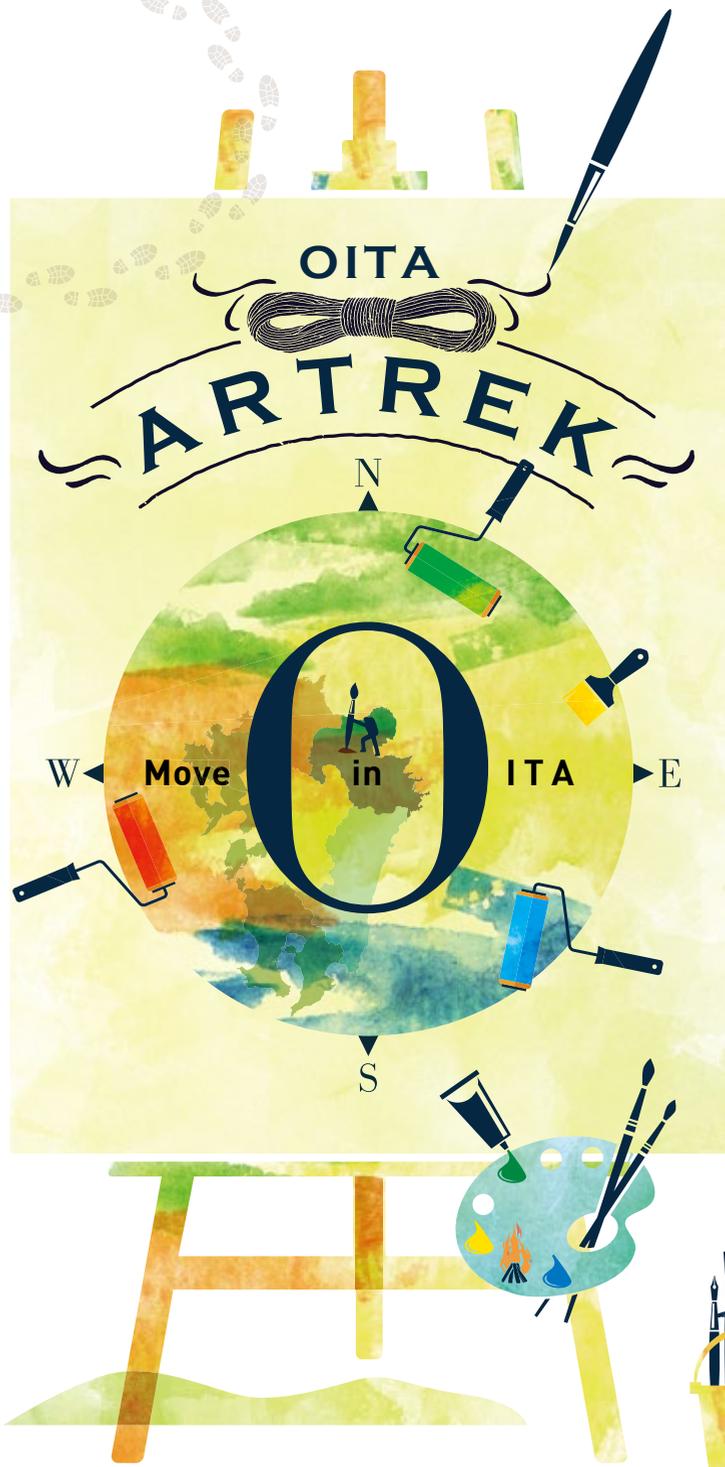


知らなかった【オオイタ】が見えてきた。



大分を
ART
+
TREK



すると、



タイトル / 「ARTREK」=ART+TREK
TREK は「少しチャレンジな旅」や「移住」の意。



古くは1970年代から行われている
AIR(アーティスト・イン・レジデンス※)を、
さらに一歩進めて
「移住・定住」と「地域活性化」を
視野に入れた試み「アートレジオン」。

広々とした
アトリエを拠点に
豊かな自然と
快適な都市機能が
ほどよく調和
されたまち
「大分市」で、
ARTをTREK
しませんか？

WONDERFUL ART
FOUND IT!!!



※…国内外からアーティストを招き、滞在中の創作活動を支援する事業

また、大分市周辺の
市町の魅力や、
それぞれの地域で活躍する
アーティストも紹介。
〳〵おいたのアート〳〵を、
ぜひ感じてください。



CONTENTS

33 31 29 27 23 17 15 7 5 3

- 33 まずは知ってください、大分市
 - 31 ABOUT OITA CITY
 - 29 ARTALK / 発信「アーティストインタビュー」
 - 27 アートレジオン推進事業
 - 23 アート移住おすすめエリア
 - 17 ARTHINK / 存在「大分市のアートシーン」
 - 15 ARTHINK / 思考「アーティスト支援・移住支援」
 - 7 Q & A 「大分市の日常生活」
 - 3 もっと詳しく、大分市
- 大分市を囲む魅力「大分都市広域圏」

まずは知ってください、
大分市



市街地

東九州最大の産業都市ながら、
豊かな自然も自慢。
海、山、川のすべてが揃い、
自然と都市が共存する優れた
都市環境を有しています。

ACCESS

大分空港発着

東京(羽田)／約1時間30分
東京(成田)／約1時間45分
大阪(伊丹)／約55分
名古屋(中部)／約1時間10分
大分空港-JR大分駅 空港バス 約1時間

JR(大分駅発着)

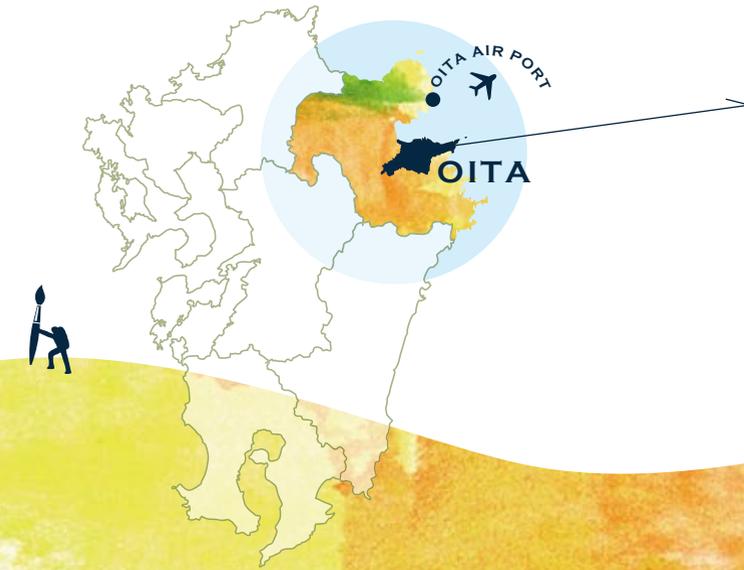
新大阪／約3時間50分(特急、新幹線・小倉乗換)
博多／約2時間(特急・小倉経由)
小倉／約1時間20分(特急)

フェリー

神戸-大分／約11時間30分
三崎-佐賀関／約1時間10分
(愛媛)

高速バス

大分-福岡／約2時間30分



ABOUT
OITA CITY

大分県の中央に位置する大分市は、48万人が暮らす東九州経済の中心地です。

周辺部には高崎山をはじめとした山々が連なり、市の半分を森林が占めています。北は別府湾、東は「関あじ開さば」で有名な豊後水道、大分川と大野川の1級河川が南北を走り、海・山・川と豊かな自然に恵まれています。瀬戸内海気候に属し、気候が温暖であることも特長です。

交通は、JR日豊本線・久大本線・豊肥本線の鉄道3線に加え、東九州自動車道といった高速道路も整備され、九州各都市へと

つながっています。

さらにフェリーなどの関西・四国への海上交通が発達しているのも、「九州の東の玄関」と呼ばれる所以です。

2015年に『JRおおいたシティ(大分駅ビル)』が誕生し、市街地が一新。駅の南北には『大分こいの道』や『祝祭の広場』など、市民の憩いの場も充実。2018年の国民文化祭・障害者芸術文化祭、そして2019年のラグビーワールドカップにおいて国内はもちろん世界中から訪れた多くの観光客をもてなしました。『大分県立美術館(OPAM)』と隣接する『ichiko総合文化センター』、『大分市美術館』に加えて磯崎建築の『アートプラザ』と、芸術関連施設も充実しています。

近年、アートとまちを結ぶ『回遊劇場』などのイベントによって、まちがアートの溢れる大分市。皆様の創作意欲を掻き立ててくれること間違いなし！

2020年版「住みたい田舎」ベストランキング上位!

若者世代が住みたい
田舎部門

全国 第6位

※宝島社「田舎暮らしの本」大きなまち(人口10万人以上)ランキングより

子育て世代が住みたい
田舎部門

全国 第14位

大分市で
暮らす・
働く、移る



OITA CITY

民間賃貸住宅(1K)の
家賃相場

3.88万円

ちなみに東京都(港区)は
12.45万円

最低賃金

790円 ※大分労働局
2019年10月

有効求人倍率

1.92倍 ※大分労働局
2019年1月
(大分地区)



高崎山
自然動物園

1,000頭を超える
野生のニホンザルが生息する
大分市の顔・高崎山。



大分マリンパレス水族館
うみたまご

高崎山や別府湾の
美しい自然に囲まれた
水族館。



とり天

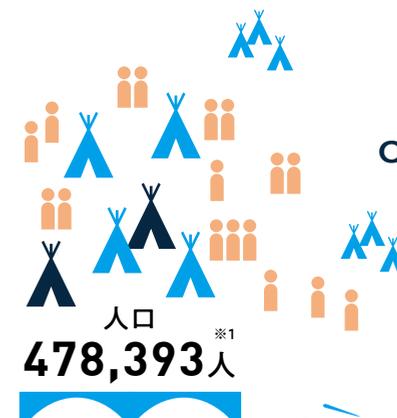
鶏肉の天ぷら、ズバリ「とり天」。
大分の郷土料理。



にら豚

大分市特産のニラが特徴。
大分市発祥のソウルフード。

大分市を
訪れる、
食する



ABOUT
OITA CITY

産業・経済も盛ん!



製造品出荷額等
九州 1位^{※5}



比較的暖かく、
雨も少ない



面積
502.39km²^{※3}



大分県は**全国1位**の源泉数!
大分市は県内第4位

大分市内の源泉総数



243カ所
2018年3月

JR大分駅から
徒歩圏内にも集中!

大分市のいいやん! 情報を発信中!

大分市公式Facebook「いいやん!大分」

大分市公式Twitter @OitaCity_PR

Instagram(インスタグラム)
大分市公式アカウント @oita_pride

YouTube
大分市公式動画チャンネル「いいやん!大分」

大分市 ソーシャルメディア で

検索 してみてください!



KITAMURA
NAOTO

自分のリズムで
創作活動
できる場所



実家からの仕送りも停止。「これでダメだったら画家を諦めるしかない」という切迫した状況でした。絵だけで食べていけないのは画家と呼ばれる人の中でも1%もないと本で見たことがあって。その1%に入りたかったら死に物狂いで絵を描いて売らなければならぬと必死に絵を描きました。路上から地下道に販売場所を移し、ひたすら絵を描き続ける日々。絵を売ることに貪欲だったこの経験が、今の根底にあると北村さん。「いろんな縁がありました。カフェの展示や個展に誘ってもらい活動も広がった。一番に感じたのは、大分の人の優しさ。人を傷つけることは言わないし温かい気持ちで接してくれた。大分の人から僕は、優しさを学びました。」

売れなくなる日が来るかもしれない...という危機感を常に持っている北村さん。「大分は商売は難しいという話をよく聞きます。分母が小さいから、ニッチなことでは絶対にやっていけない。でもアートってニッチな世界ですもんね。だから、老若男女どの世代にも受け入れられるものを...と常に意識しています。僕は、望まれている方向に進むべき道がある。と考えているから、絵が売れなくなって、その時も陶芸が求められていたら陶芸をしようと思えます。いろんな人たちの出会いのおかげで、僕は若い頃想像していた未来よりもはるかに遠くまで飛ばせてもらってると感じます。上昇させてもらった分は飛ぶ責任があると思うし、最初の1枚目の絵に僕の作品を選んでくれた人たちが喜んでくれる活動をこれからも続けたいなと思います。大分は優しくもあり、厳しくもある。だから、ここで自信をつけることができたらどこに行っても大丈夫。」

WONDERFUL ART
FOUND IT!!!



大分の人から
「優しさ」
を学びました

ARTIST ARTREK
No.01

PROFILE

北村 直登

1979年、福岡県春日市出身。2002年より絵を描き始め、現在は大分市内のアトリエで創作活動を始め、日本各地の百貨店での催事出店や、自治体・企業とのコラボ企画、美術関連イベントやワークショップなどにも積極的に参加し、活動の幅を広げている。

<https://www.naotokitamura.com>



INTERVIEW

「作家さん達はもう気づいていると思う。どこにいてもいいんじゃないか」と。開口一番にそんな話を始めた画家の北村さん。表現したいことをSNSで自由に発信でき、情報も一瞬で集められる現代、アーティストの活動も、グループから、個へと移行し、場所へのこだわりもなくなってきた、と話してくれた。アーティストが創作し、ギャラリーが作品を販売するというアートビジネスの流通にこだわらず、北村さんはインターネットを利用して、自らの販路を開拓してきた。大分という地方都市で、困難と恐れがちなアートを売るというビジネスに成功した、第一人者と言っても過言ではないだろう。

サッカー選手を目指して留学も経験した北村さんが、ケガによりその夢を諦め、画家を目指したのは21歳。書きためた絵を並べて路上販売を始めたが、生活は困窮。家賃も払えなくなり、



Kana

佐賀関は
自然な形で作家を
受け入れてくれる



思うまま、
作りたいものと
向き合う場所

ARTIST ARTREK
No.02



PROFILE

Kana

1983年長崎県生まれ。主にソフトスカulptureを制作する現代美術家。県内各地で展覧会や子ども向けのワークショップを積極的に開催。大分市佐賀関で夫と2人暮らし。

<https://kanapekori.jp/>

INTERVIEW

大分市佐賀関さかのせきに建つ「旧大志生木おおしぎまき小学校」。2016年に閉校となったこの校舎は今、アーティスト達のアトリエとして生まれ変わっている。

糸や布、綿など柔らかい素材を使用した立体作品、ソフトスカulpture（柔らかい彫刻）作家のKanaさんは、教室をアトリエとして利用しているアーティストの一人だ。

地元長崎市から大分市の大学に進学し、卒業後は小学校や短期大学の非常勤講師に。その傍ら、粘土でアクセサリーなどの小さな作品を作るクレイ作家としても活動していたKanaさんだったが、時間が経つにつれ「もっと大きいものを作りたい！でも場所がない!!」と、自身の置かれている状況にストレスを感じるようになっていたという。

そんな時に巡り合ったのが、旧小学校の教室アトリエだ。

「まさに、救世主が現れた（笑）。昔は大きいのが作りたいのになって嘆いてみたりしても、制作場所が

狭いから作品もほとんど小さくなって。空間が広くなると、作るものはどんどん大きくできる。ちょっと自分でも止められないくらいですけどね!」。

手のひらサイズなど小さな作品しか作れなかった部屋から教室という広い空間に解放されたKanaさんは大きさに対するリミッターが外れて、4mを超える超巨大な作品も勢いのままに次々と作り始めた。

展示会などに出席すれば特に子ども達の興味や冒険心をくすぐるようで、人気も上々。「私が作品に隠している秘密に気づいてくれたら嬉しい。自分で言うのも何ですが、子ども達の評価が高いんです」。そんなKanaさんだから、ワークショップを開けば大盛況。市内・市外どこでも声がかかれば駆けつけては子ども達の反応を楽しんでいるようだ。

マネージャーを務める夫とともに別府の自宅からアトリエに通い始めて1年が経った頃、ついに近隣の大志生木地区に移住した。

「近所にお店がないから車を持っていないと不便だなんて感じる場所だけど、それ以外は最高。地元の人達はみんな優しく、いつも自然に声をかけてくれますよ。おすそ分けしてくれる採れたての野菜や果物、魚、卵などいろんな食材もおいしくて。人と人のつながりを大切にできていれば、本当に住みやすい場所だと実感しています」。広くて静かなアトリエの環境は制作にもってこい。同じくアトリエを利用している他のアーティストとの共感や競争心も創作意欲を掻き立てるものとなり、地域住民との交流は心の栄養剤となって作品の幅を広げてくれるものとなっている。

「美術系の人は、学校を卒業するとアトリエの確保にすごく苦労するんです。その点、ここは学校の教室だから空間は広いし、利用料もすごくありがたい金額で貸してもらえます。大きい作品を作りたいアーティストの皆さん、ここなら思う存分、制作できるからおすすめですよ」。



MAKABE RIKUJI



アートを
盛り上げる
若手の登場に
期待している

難しいと思っていた。そんな時に
オーナーからとにかく大分に一度
行ってみると言われ初めて大分に
来た。
様々な土地で制作してきた真
壁さんだが、なぜか大分どころか
九州自体が初めてだった。
大阪からフェリーに乗り、別府
の港に着く直前の湯けむりの景
色やコントラストが付いた山の稜
線の美しさにワクワクしたことを
今でも覚えていると言う。港から
直行して佐賀関に着いた時の印
象は、「のどかな地域だな」。ア
トリエのすぐそばには海があり、
反対を向けば山がある。夏でも
風通しがよくて過ごしやすく、快
適に制作に打ち込める環境だと
瞬間で気に入った真壁さんは「広
くて静かで、きれいすぎなくて、
アーティストにとって最高の空
間。着いた日から土日の休みも
なく、1日10時間ペースでひたす
ら黙々と制作していた」。
アトリエでの制作期間中、大
分市で開催された「回遊劇場
SPIRAL」にも出展。府内町にあ

るビルの空き店舗に残るコンク
リートの壁に大小の鮮やかな風
景を配した作品は、壁二面が大き
な絵のようで圧倒される存在感、
そして独特の雰囲気醸した作
品に仕上げた。
「大分は隣の市や町でも雰囲気
が違って、どこも個性がとても強
いと感じた。各地域が独自のプ
ラウドを持っていて、それがとも
かっよかった。だから、コミュ
ニティ、共同体というテーマで作
品を作りました」。
福田平八郎や高山辰雄など美
術の巨匠を輩出した大分県に敬
意を表すとともに、大分県のア
ートがもっと盛んになってほしいと
いう思いも口にした真壁さん。
「求心力のあるリーダーが大分
のアートを引っ張ってくれば、
さらに面白い街になると確信して
いる。教室アトリエはそのきっか
けにもなると思うし、リーダーを
育成するという意味でも、20代
とか若いアーティストを大分に呼
んでのびのびと制作させてもらえ
たらいいですね」。



大分の
強い個性と
プライドに
感銘

ARTIST ARTREK
No.03

PROFILE

眞壁 陸二

1971年生まれ、画家／現代美術家。
石川県出身。多摩美術大学油画専攻
卒業。ベイスギャラリー所属。
国内外の展覧会や芸術祭に多数出
展。公共施設や旅館などへのコミッ
ションワークも多数制作している。

「今でも自分は画家と言ってる
が、瀬戸内国際芸術祭などでは
家全体を作品にするのでスケール
が大きい、従来の絵画という概念
ではくくられなくなっている。国内
なら現地で制作するという選択
肢があるけど、今回の作品は大
きすぎてさすがに全てを中国に
長期滞在して制作するというのは
佐賀関のアトリエを薦められた。

前頁のKanaさん同様、国内
外で活躍する眞壁陸二さんも「旧
大志生木小学校」の教室アトリ
エを利用してはいる画家&現代美術
のアーティスト。地元金沢市を拠
点に、瀬戸内国際芸術祭や奥能
登国際芸術祭など国内の芸術祭
をはじめ、国外での展覧会も積
極的に行っていた眞壁さんが、縁
もゆかりもなかった大分県に来た
のは2019年春。中国蘇州市の
美術館から依頼を受けた高さ3
m×幅25mという超巨大な絵の
制作場所を探していた時に、所
属する東京のギャラリーのオー
ナーが大分出身であったことから
佐賀関のアトリエを薦められた。



女性
アーティスト
として、
私がするべきこと

ARTIST ARTREK
No.05



SHIMODAIRA
CHINATSU

INTERVIEW

建築家になることを目指し大学で建築を専攻していたが、在学中に建築と美術の関係に興味を持ち、卒業後東京藝術大学大学院へ。現代美術を学び、ビジュアルアート（視覚芸術）の世界に足を踏み入れた。

空間を作品化するインスタレーションという手法を得意とし、様々な素材を用いて空間表現に挑む下平千夏さん。六甲ミーツ・アート芸術散歩や、海外のアーティストインレジデンス、瀬戸内国際芸術祭など、国内外で制作・発表を行う。出産を機に作品発表を控えることが増え、制作活動を中断。「作品をつくりたい」という思いが膨らみ始めた頃、夫の仕事の都合で2019年4月、地元長野県から別府市へ拠点を移した。

「諦める気持ちは毛頭なかったが、子育てしながら満足いく作品を発表していくのは正直ハードルが高いし、不安があった。同じような状況下で闘うアーティストがいるかもしれない。今こそ制作



PROFILE
下平 千夏

1983年生まれ、長野県出身の現代美術家。武蔵野美術大学建築学科卒業後、東京藝術大学大学院修士課程先端芸術表現専攻を修了。2歳の息子と夫と3人で別府市に暮らす。

活動を通して一つの生き方を示すべき、と復帰に対する気持ちが強くなりました」。

旧大志生木小学校のアトリエを利用してまだ数ヶ月。ここではワークショップを通して地元の方々に場所を開き交流する機会が多い。今後の活動方法を模索しつつ、実現したい夢が一つ生まれた。

「小さい子がいるお母さんを対象にした、託児スペース付きのワークショップを開きたい。その2〜3時間の間だけでも、育児のストレスを忘れられるような。アートを通じて友達ができ、この地域に対する思い入れが強くなって、いつか子ども達にとってもこの場所が地元になっていく。そういう循環が生まれる場所にできたら、と思います」。



若い人は、
複数でシェアして
使うのも
いいと思います

ARTIST ARTREK
No.04



YONEMURA
TOSHINORI

INTERVIEW

イラストレーターの米村知倫さんは、旧大志生木小学校に初年度から利用しているアーティストの一人。地元・熊本で学んだ建築表現を活かし、よく通っていたお店から頼まれたチラシやショップカードなどを作っているうちに、イラストやデザインが仕事になった。そして2016年、奥様の親戚がおり、自然や美味しい食にも惹かれた大分に移住。大分の仕事も少しずつ増えてきたが、仕事の依頼は熊本や東京など県外からが多い。

移住して2年、新たな創作活動の場を探していたところ、旧大志生木小学校のアトリエを利用していたkanaさんから「閉校になった小学校の利用者を募集している」と聞き、実際に訪れてみると「すごく風が抜けていて。夏だったんですけど、僕が来た日は涼しくて。静かだし、すごく環境が良かった」と、利用を決めた。アトリエを利用するアーティストとの



PROFILE
米村 知倫

1985年熊本県生まれ、イラストレーター。熊本大学大学院建築学専攻修了後、坂口泰平事務所を経て、2013年に独立。広告や本の表紙、挿絵、ポスターなど紙媒体を中心に幅広く活動中。
<https://yone.in>

交流も生まれ「第一線で活躍する方の制作の様子をダイレクトに見られたり、自分とは違う分野の方と対話することで、発見がある。それは大きいですね。」「ここにいるからこそできることも、取り入れていきたい」と、「こどもアート学校」にも講師として参加。現在は、「ここではちょっと大きいものを描くとか、まだちゃんとデザインしていないアイデアを、風や自然を見ながら考えるとか。自宅事務所だけじゃなくて、こういう場所があると気分転換にもなるし、また違う制作ができる」と、魅力的な環境を創作に活かしながら、市内の別の場所にある自宅と2拠点での活動を行っている。



旧大志生木小学校
大分市大字志生木207番地の1
地図(P31)参照



「アートレジオン推進事業」は、大分市が2017年から取り組んでいる事業です。アートレジオンとは、英語のアート（芸術）と仏語のレジオン（地域）を組み合わせた造語で、人口減少や少子高齢化が進む大分市の周辺地域に、県内外からアーティストを呼び込み、創作活動を行っていただきながら、アーティストイベントや地域との交流を通して、地域活性化にも一役買ってもらいたいという思いで、この事業が始まったのは、大分市中心部から車で約40分の位置にある佐賀関地区。2016年に大志生木小学校が閉校した中、子ども達の笑い声を再び地域にという地元の声がかっかけてきた。2018年から旧校舎の一部をアトリエとして運用し、これまで県内外7組のアーティストが利用。教室を活かしたアトリエ

ART REGION

「広々として大きな作品を作れる」と喜ばれています。さらに、恒例となったアトリエイベント「子どもアート学校」では、アーティストが先生となって、子ども達にワークショップをしたり、地域の皆さんが地元産品の販売や旧小学校の歴史展などを行ったりするなど、眠っていた校舎を拠点に、地域に新しい風が吹いています。

「子どもアート学校」は、そのほかにも大南地区、野津原地区へと展開。2020年からは、旧校舎を活用したアトリエを野津原地区にもオープンするなど、アートによるにぎわいづくりが広がっています。

自然に囲まれた広々としたアトリエを拠点に、あなただけの創作活動を見つけてみませんか。



子ども達との
触れ合いは、
自分にとっても
刺激になります
のっけむしさん
(イラストレーター)

こんな方に貸し出しています！

- 文化・芸術に関する活動を生計の主としている、または志している人
- 地域住民とのコミュニケーションが図れる人
- 文化・芸術の振興と地域の生涯学習の場としてアトリエの公開や作品展示、ワークショップの開催などを実施できる人



地域の賑わい作りに一役買えて嬉しいです
沖美紀さん
(ワイヤーアーティスト)



旧野津原中部小学校
大分市大字竹矢2108-1
地図(P32)参照

ご利用方法

～アーティスト・イン・レジデンス～
短期で制作したい方も利用できます

- 1 まずは90日間のお試し使用（無料）
- 2 その後、本格利用（料金は、光熱水費等）
最大5年間使用可能

2020年4月から旧野津原中部小学校のアトリエもオープン！大志生木、野津原ともに利用希望の方は文化振興課へ！



アート移住おすすめエリア

佐賀関地区

DATA

【特産】
関あじ、関さば、
クロメ、甘夏

大分市の東端に位置し、半島の先端部は愛媛県の佐田岬半島と相対する佐賀関。その歴史は古く、神武天皇が東遷の際に佐賀関半島の突端、関崎と高島の海峡である速吸の瀬戸を通ったと伝えられています。また、長崎に向かう坂本龍馬と勝海舟が立ち寄った足跡も残ります。

昔から九州と四国、瀬戸内地域との交流が盛んな海上交通の要衝で、現在も四国行のフェリーが就航しています。製錬所のある佐賀関港と、関あじ・関さばをはじめとした高品質な水産品の水揚げ港である佐賀関漁港とを中心とする地区は、まさに海辺の町といった雰囲気です。



高島とウミネコ

佐賀関港から15分ほどの離島ウミネコの営巣地で、断崖にはウミネコが並ぶ姿が見られます。



関あじ・関さば

佐賀関で一本釣りされる「関あじ」「関さば」は、ブランド魚として全国的に人気です。



面積 / 49.58km²
人口 / 8,355人
(男性 3,926人、女性 4,429人)
世帯数 / 4,331世帯

ACCESS

大分市内から車で約40分
大分駅⇒日豊本線・幸崎駅下車、佐賀関行きバスに乗り換え
大分駅⇒大分バス「佐賀関」行き
最寄のIC / 東九州自動車道「大分宮河内IC」

SAGANOSEKI AREA

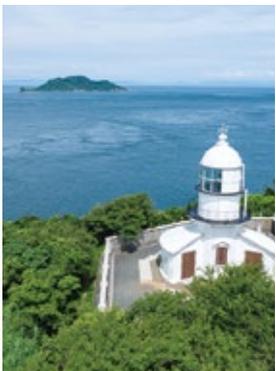


関の鯛つりおどり大会

伝統の一本釣り漁の豊漁を願う踊りは、「鯛じゃい、鯛じゃい」の威勢の良いお囃子とともに毎年披露されています。

関埼灯台

豊子海峡を見下ろす位置にあり、明治期に築造された白亜の灯台は県内最古のものです。



早吸日女(はやすみめ)神社

佐賀関のシンボル「関の権現様」として親しまれている早吸日女神社は、海上安全の神・厄除開運の神として古くから、海に携わる多くの民の信仰をあつめています。



徳応寺

幕末期、南蛮船の砲撃中止交渉のため幕府から長崎出張の命を受けた勝海舟が坂本龍馬を連れ立って神戸を出帆、佐賀関に上陸した際にこの寺に宿泊した記録が残されています。



関崎海星館

日豊海岸国定公園内に立地する展望・天体観察施設。星空案内人が、昼は太陽や金星などの明るい天体を、夜は輝く星々や星雲・星団などを案内します。

アート移住おすすめエリア

野津原地区

【特産】
ニラ、豊の七瀬柿、
シイタケ

DATA

野津原地区の南側には、宇曾嶽、障子岳、御座ヶ岳、鑑ヶ岳等の600mから800m級の山々が連なり、七瀬川が地区の中心を流れています。
江戸時代、参勤交代の際に利用された豊後鶴崎と肥後熊本を結ぶ肥後(豊後)往還の石畳道「肥

後街道」が有名です。「今市石畳」と呼ばれ、幅2mの石畳が660mほど現存します。通り沿いには、肥後細川公の本陣や御茶屋がありました。



NOTSUHARU AREA

面積 / 90.83km²
人口 / 4,263人
(男性 2,011人、女性 2,252人)
世帯数 / 2,069世帯

ACCESS

大分市内から車で約40分
大分駅⇒大分バス「野津原」行き
最寄のIC / 東九州自動車道「大分光吉IC」

後藤家住宅

18世紀中頃、後半に建てられた、茅葺寄棟造りの大分市最古の民家。国重要文化財。



ななせダム

1970年の予備調査から、約半世紀をかけて整備が進められました。岩石や土を積み上げて作る「ロックフィルダム」で、ダム本体の高さは91.6m、幅は約500mに上ります。



道の駅のつはる

2019年11月末にオープン。ダム湖を望み、外観は後藤家住宅をイメージ。地元で採れた野菜や加工品、ジビエ料理などが楽しめます。



今市石畳

肥後藩主や豊後岡藩主が参勤交代で利用した石畳道。坂本龍馬や勝海舟も通ったといわれています。



丸山神社楼門

1720年、今市の豪商が父母の長命と子孫繁栄を祈願して寄贈したと伝えられています。十二支や二十四孝の人物が彫られた豊後で数少ない楼門は、大分市指定有形文化財に指定されています。



のつはる寿司

アジやサバなどの魚を甘酢漬けのキャベツで巻いたサッパリとしたお寿司で、野津原の郷土料理。



アート移住おすすめエリア

大南地区

【特産】
戸次ごぼう
ニラ

DATA

大南地区の戸次本町は、古来より交通の要衝として重視され、江戸時代には城下町と対置される在郷の中心として形成された、数少ない在町です。
戸次本町の、大庄屋であった帆足家は、豊後南面の大家「田能村竹田」や儒学者「頼山陽」など多

くの文人墨客と親交が深く、当地区は文化の薫る農村商易のまちとして栄えました。このエリアには、江戸時代末期から戦前にかけて建てられた貴重な建築物が現存し、地区固有の伝統的な文化が今も息づいています。



面積 / 121.48km²
人口 / 27,542人
(男性13,171人、女性14,371人)
世帯数 / 11,223世帯

ACCESS

大分市内から車で約25分
大分駅⇒豊肥本線・中判田駅下車
大分駅⇒大分バス「戸次・臼杵・佐伯・竹田・三重・熊本」各方面行き
最寄のIC / 東九州自動車道「大分米良IC」

DAINAN AREA

戸次本町の町並み

大野川沿いの交通の要衝地として、日向街道沿いの在町だった戸次。本町周辺には、江戸時代の風情を留める建物や町並みが残っています。



鮑腸(ほうちょう)

戦国大名・大友宗麟公は鮑が大好きで、不漁の時に家来が小麦粉で鮑の腸に見立て作ったのが由来といわれています。



戸次ほうちょう保存会
大分市無形民俗文化財



吉野鶏めし

鶏肉やゴボウの炊き込みご飯の一種で、大分市南部にある吉野地区の郷土料理。



戸次ごぼう

やわらかく、風味が良いのが特徴です。また、多くの加工品が販売されています。



大野川合戦まつり

天正14年(1586年)、大友・四国連合軍と島津軍が戦った「戸次川の戦い」を再現した武者行列や騎馬隊、鉄砲隊、弓矢隊による合戦絵巻等が行われます。

帆足本家酒造蔵

江戸末期から明治にかけて建築され、昭和47年まで酒造りに使われた木造2階建ての酒蔵です。
大分市指定有形文化財

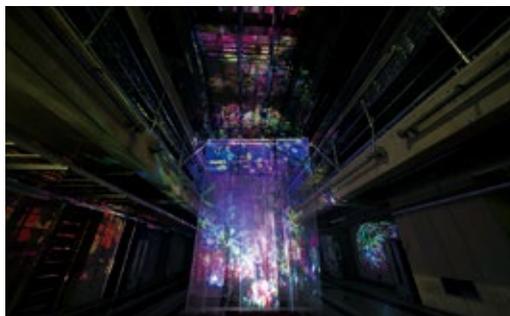


帆足本家酒造蔵の内部

酒造蔵には樽などの道具が展示され、酒造りについて学べます。



2018年 回遊劇場 Olectronica 会場イメージ



2019年 回遊劇場 SPIRAL 曾谷 朝絵「宙(そら)」

ここ数年で、駅の高架化であったり、大分県立美術館（OPAM）や大分いこいの道、駅ビルができたりと、まちの様子が大きく変化しました。大分市美術館としても何をすべきか7年前くらい前から模索する中で「まちに出て行く」ということが大切な、と。その頃から美術館の中で待つだけでなく、外へでかけて行って仕掛けをする、呼び込む、という取り組みを毎年することで、まちとの繋がりを定着させていきました。そして近年大分市は「アートを活かしたまちづくり」を推進しています。

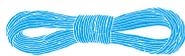
大きいものとしては、2018年に国民文化祭があり、そこで大分市中心市街地で「回遊劇場、ひら

現在の 大分のアートシーン

く・であう・めぐる」という仕掛けをしました。まちなかにあるパブリックな空間や日常空間を舞台にしたアートとまちを結ぶプロジェクトです。日常にアートが介入することで、新しいまちの表情を発見するきっかけを作りました。

2019年にはラグビーワールドカップが大分でも開催され、そのタイミングで実施したのが大分アートフェスティバル2019「回遊劇場 SPiRAL」です。今までやってきたものの延長線上に、さらにウォールアートやアートイベントなどを展開し、新たな大分の魅力を発信する契機になったと考

アートと
まちを結びと、
まちが
おもしろくなる



2018.10.6~11.25
国民文化祭2018期間中に開催



2019.9.20~11.2
中心市街地各所で開催

えています。

大分市には美術館が二つ、それぞれにアートプラザなど活用できる様々な施設や場があります。県内で活躍するアーティストにも繋がりが出つつあり、ジャンルを超えた動き、コラボレーション、社会的包摂もみられます。何より近年、まちがおもしろくなりました。次から次へもつと繋がっていくでしょうね。



回遊劇場 SPIRAL アートイベント
西村 正幸「黒板家族 ~平和をつくる者~」

日常に存在する
アートが
新しいまちの
表情を
魅せていく

ARTHING
OITA
ART
History



SUGA
AKIRA

PROFILE
菅 章

1953年大分市生まれ
大分市美術館館長
国際美術評論家連盟会員
美術館連絡協議会理事
大分県立芸術文化短期大学非常勤講師

全国・世界に誇れる大分出身の芸術家が数多くいるのはご存知だと思います。

そもそも大分は古くから仏教文化が栄え、ここに大友宗麟

時代の南蛮交易による文化が加わりました。豊の国の礎です。江戸時代には、田能村竹田を源流とする豊後南画が盛んになります。その後、帆足杏雨、田能村直入ほか弟子たちに引き継がれ、南画王国として脚光を浴びます。

多くの「巨匠」を輩出している大分市

画家、文化勲章受章）ら教え子を育てます。また、山下の影響力は学校だけにとどまらず、いっきつけのカフェには大分の文化人や芸術家の卵たちが集い、文化グ

こうした文化・芸術全般にわたる先進性は、この地特有の風土として、明治以降も多くの芸術家を輩出しました。

徹底した写生から装飾へ展開した福田平八郎の絵画は、多くの人を魅了し、のちに文化勲章を受章。また、芸術家をつなぐ存在として欠かせないのが、旧制大分中学（現県立大分上野丘高校）の美術教師、山下鉄之輔です。

当時最新の芸術思潮、白樺派の美術、音楽、文芸を生徒たちに紹介し、林房雄（作家）、佐藤敬（洋画家）、高山辰雄（日本

ループ活動をするまでに発展。

その後、拠点となったキムラヤ（画材店）は、珈琲文化と芸術の聖地となります。戦後もキムラヤには、多くの芸術家の卵たちが集います。昨年「建築界のノーベル賞」と呼ばれるプリツカー賞を受賞した磯崎新は、高校時代からキムラヤのアトリエでデッサンをしていました。（その後、東大工学部に進学し、芸術に少しでも近い世界に身を置いたため建築家になります。）大学進学後、磯崎は帰省のたびにキムラヤに通い、そこで活動する仲間たちと「新世紀群」というグループを結成し、野外展等を開きます。「新世紀群」には後に「ネオ・タダ」（前衛グループ）／1960年に東京で結成）で活動した吉村益信や赤瀬川原平、風倉匠らも出入りしていました。

このように大分市には連続と続く芸術的風土があるといえます。

まちなかアートスポット

大分県立美術館

2015年4月にオープンした『大分県立美術館』は、OPAM(オーバム)の愛称で親しまれています。出会いと五感のミュージアムをコンセプトに、大分ゆかりの作家の作品を中心にしたコレクション展と、国際的な視野に立った自主企画展、様々なワークショップやレクチャーなどを開催。建築界のノーベル賞といわれるプリツカー賞を受けた、世界的建築家・坂茂(ばんしげる)設計の建物は、大分の誇る伝統工芸の竹工芸をイメージさせる外観と、閉閉可能なガラス水平折戸が印象的です。ミュージアムショップやカフェも併設し、ゆっくりとした時間を過ごせます。



大分市寿町2-1 TEL 097-533-4500

アクセス
 ・JR大分駅府内中央口から徒歩約15分
 ・大分きかんバス「オアシスひろば前(県立美術館南)」下車、徒歩1分

大分市美術館

屋外に設置されている巨大なゾウのオブジェ、安藤泉(あんどういずみ)の「遊星散歩」がシンボルとなっている『大分市美術館』。JR大分駅の南側に位置する小高い丘のてっぺん、自然豊かな上野丘子どものもり公園の中にもあり、大分市街地を一望できる眺望も楽しめます。館内では田能村竹田や福田平八郎、高山辰雄ら大分にゆかりのある芸術家たちのコレクションの展示のほか、大分の若手アーティストから世界で活躍する芸術家まで、幅広い特別展を年間を通して開催しています。



大分市大字上野865 TEL 097-554-5800

アクセス
 ・JR大分駅上野の森口から徒歩約30分
 ・大分きかんバス「大分市美術館」下車すぐ

アートプラザ

2019年プリツカー賞受賞、大分市出身の世界的建築家・磯崎新(いそざきあらた)が設計した『アートプラザ』。文化・芸術の複合施設として1階、2階には市民ギャラリーや美術創作活動の場が設けられ、3階には磯崎新がこれまで手がけた世界各地の建築作品の模型や、貴重な資料を常設展示しています。2階にあるミュージアムショップでは、大分を拠点に、全国的な活躍をみせる若手アーティストの作品を販売。建物も展示もショップも併せて楽しめます。



大分市荷揚町3-31 TEL 097-538-5000

アクセス
 ・JR大分駅府内中央口から徒歩約15分
 ・大分きかんバス「大分市役所合同新聞社前」下車、徒歩2分

大分市内には、大分市美術館から景色に溶け込む作品まで、アートなスポットがたくさんあります。

パブリックアート

大分市では2015年からアートを活かしたまちづくり事業を進めており、トイレを舞台にしたアートフェスティバル「トイレンナレ」のトイレ作品や地下道アート、「回遊劇場」でのウォールアート、シャッターアートなどたくさん作品がまちなかで制作されました。「小鹿公園」の「Peinture」など、現在も鑑賞が可能です。

まちなか彫刻

中心市街地にある「遊歩公園」や『中央通り』など、大分市内には多くの屋外彫刻が点在しています。大友宗麟公像やフランシスコ・ザビエル像のほか、音楽、演劇、医療といった西洋文化発祥の記念像、大分県出身の彫刻家・朝倉文夫をはじめ、大分にゆかりのある作家の作品など様々です。これらは、大分の文化と歴史を物語る貴重な文化遺産です。

大分市のアート巡りに便利!
大分きかんバス



中心市街地循環バス「大分きかんバス」。JR大分駅やまちなか、県立美術館、市美術館、アートプラザなどを1コイン(100円)で結びます。さらに、1日乗車券200円※を県立または市美術館の窓口で提示すると観覧料が割引に。平日は8時~17時45分まで、土・日曜日、祝日は9時45分~、それぞれ約30分~60分間隔で運行します。車窓から眺める景色も堪能しながら、大分のアートシーンを感じてみませんか。

問/大分市都市交通対策課 TEL 097-578-7795

※1日乗車券は大分バス総合案内所または大分交通大分駅前バスセンターで購入できます。

M A C H I - N A K A



A R T



車両デザインは、外装、内装ともに、クルーズトレイン「なつ星in九州」や大分駅ビル「JRおおいたシティ」などを手がけた工業デザイナーの水戸岡鋭治氏によるデザインです。



S P O T

大分市でのアートな暮らしを応援

デザインの力をビジネスに！
 おおいたデザイン・エイド

大分市では「クリエイティブ産業の裾野の拡大」、「市内クリエイターの育成」、「クリエイターの発想・技術を活用した企業の販路拡大」を図ることを目的に、クリエイティブ産業育成事業「おおいたデザイン・エイド」を実施しています。デザインに関する講演会や、市内企業の実際の商品が課題となるパッケージデザインコンテストを通じて企業とクリエイターのマッチングを図り、従来の枠にとらわれない新たな価値の創造を目指します。

問／大分市商工労働課

☎097(585)6011



おおいたデザイン・エイド2019



2019年 最優秀賞

クリエイター／井下 悠さん（大分市内在住）
 課題提供企業／有限会社住宅企画
 商品名／天然炭酸水 YOIYANA



創作活動や居住の支援

「空き家のアトリエ改修をサポート」
 大分市空家等改修支援事業

空き家を文化用途に転用する費用などの一部を補助します。（左記インタビュー参照）

【大分市住み替え情報バンク】

大分市内の空き家・空き地の売却や賃貸情報を大分市ホームページで情報提供しています。

【大分市移住者居住支援事業補助金】

大分県外から大分市内へ、自己の意思で転入する場合に、住宅の新築・購入・賃貸や引越し費用の一部を補助します。

※要件や補助金額等はお問い合わせください。

問／大分市住宅課

☎097(585)6012

WONDERFUL ART
 FOUND IT!!!



補助金があったからこそ完成した、 創作と住まいの理想の空間

大きな箱のような空間を使った大胆なワンルームが、岡崎真悟さんのご自宅兼アトリエ。アーティストが使える「大分市空家等改修支援事業」を利用し、使われていなかった空き家をリノベーションした。以前は日出町の古民家に住みながら創作活動を行っていたが、子どもが生まれるのを機に「もう少し広い場所を」と引越しを決めるも、「仕切りのない家」という理想に叶う物件がなかなか見つけれなかった。そんな時、奥様の実家にある空き家の存在に気づく。大分市へのUターン移住を考えていたため、奥様が相談に行っていた市役所で空き家改修の制度があることを聞いていたこともあり、条件に当てはまることを確認した上で、リノベーションすることを決めた。水道を引くなど大規模な改修が必要だったため費用はかなりかかっているものの、「こういう補助金がなければ、踏み切れなかったと思います」と、岡崎さん。「絵を中心に

した空間づくりを考えた」と、広くとった壁にはドロ잉作品が飾られ、ギャラリーの役割も果たしている。

昨年の4月に住みはじめてから、アトリエや住居を開放する「オープンスタジオ」を数回開催。仕切りのない広い空間を活かしたヨガ教室なども行い、今後は料理教室なども企画中だとか。「せっかくなにかいう空間があるから、僕らが面白いな」と思うことを、楽しみながらできたらいいなと思います。親子3人と猫3匹、一家でアートと共にある暮らしを満喫中だ。



PROFILE 岡崎 真悟

1979年大分市生まれ。グラフィックデザイナーからアーティストへ。現在は、抽象的なドロ잉やペインティング画を中心に、自宅兼アトリエで制作活動を行う。
<https://www.shingookazaki.com>





家賃はどれくらい？

総務省統計局
「社会生活統計指標 2019」

1坪当たりの民間賃貸住宅家賃は、東京都の8、562円に比べ、大分市は3、624円と約2/5!!これを基に一般的な3DK賃貸住宅(18坪)で算出すると、東京都では約154,000円ですが、大分市では約65,000円になります。

教育環境は？

※2019年4月現在

大分市内には、国公立・私立を合わせて小学校は56校、中学校は33校、義務教育学校は1校、高等学校は21校あります※。図書館は「大分県立図書館」や「大分市民図書館」などがあり、美術館のほかにも、大分市全体の歴史を学べる「大分市歴史資料館」や「南蛮B.V.N.G.O.交流館」「海部古墳資料館」などが揃います。



大分県立図書館



大分市歴史資料館

大分市の気候は？

年間を通して日照時間も長く、過ごしやすい気候です。しかし冬には、まれに雪が積ることも。

どんな言葉を使う？

九州の中では、あまりイントネーションが強くないといわれ、中国・四国地方の方言と似ている部分も。独特の方言としては、「なしかい」「ええらしい」「かわいい」「よだきい」「だるい」など。まずは「しんけん」とても「しんけん」を覚えて、大分市でごはんを食べて「しんけん美味しい!」と言ってみましょう。

ご当地グルメは？

全国に誇るブランド魚「関あじ・関さば」や、郷土料理では、アジやサバ、ブリなど季節の魚の切り身をしょう油などのタレに漬け込んだ「りゅうきゅう」、カリッ、ふわっとお店ごとの衣の食感も楽しめる「とり天」、シイタケなどの野菜を加えた味噌仕立ての「だんご汁」などが楽しめます。さらに、大分市特産のニラを使用した大分市発祥のB級グルメ「にら豚」など、美味しいものがいっぱい!スーパーに並ぶ刺身も安く新鮮です。



りゅうきゅう



にら豚

休日の過ごし方は？

街なかでのショッピングや、豊かな自然を満喫すべく山や海など郊外に出掛けてみましょう。魚釣りができるスポットもいっぱい。リラックス重視なら、地下600~800mの深層に貯留する深層熱水の「大深度地熱温泉」を。アクティブ派なら、国内トップクラスで活躍するスポーツチームの観戦もおおすすめです。

買い物はどの辺で？

中心市街地には、百貨店や駅ビルのほかに、「府内5番街」や「サンサン通り」「ポルトソール」などの商店街、「セントポルタ中央町」や「ガレリア竹町」といったアーケード街もあります。さらに郊外にも「パークブレイス大分」「トキハわさだタウン」といった大型商業施設も充実しています。



仕事を探すなら？

自然豊かで、産業も盛んな大分市は、働く場所もたくさん!

おおいた産業人材センター TEL 097-533-2631

大分での就職、若者の就職なら!

- ・ハローワーク大分 TEL 097-538-8609
- ・ジョブカフェおおいた TEL 097-533-8878

起業希望なら!

- ・大分市産業活性化プラザ TEL 097-576-8879
- ・大分市創業経営支援課 TEL 097-585-6029

林業・漁業希望なら!

- ・大分市林業水産課 TEL 097-585-6028

農業希望なら!

- ・大分市農政課 TEL 097-537-5628

- ・大分市おおいた魅力発信局 TEL 097-578-7749

移住の相談は？



もっと詳しく、大分市

東西に広く、北部は海、南部は山、中央を2本の1級河川が縦断し、豊かな自然を育んでいます。

アート移住おすすめエリア(P17・22から、大分市中心部までは車で30〜40分ほどです。



高崎山自然動物園



田ノ浦ビーチ



大分市美術館



J:COMホール大分
大分いこいの道



JRおいたシティ



大分県立美術館OPAM



アートプラザ



大分城址公園



ARTIST ARTREK
No.06

温泉が育む別府の物語を
作品で翻訳し、発信していきたい



【BEPPU】

KATSU MASAMITSU

海外や県内外から集まったアーティストやクリエイターたちが、居住・アトリエとして利用する別府市の「清島アパート」。勝さんがここにアトリエを構えて今年で11年目になる。

武蔵野美術大学を卒業後、多くの展覧会に出展、受賞歴を持つ勝さんに、別府市で創作活動を続ける理由をお聞きした。「東京にいた頃は一切外出せず、長期間アトリエに籠って創作していました。ずっと座りっぱなしだったので、エコノミー症候群になって死にかけてことも…。このままでいいのか？と迷っていた時、知人に誘われて『わくわく混浴アパートメント※』に参加することに。

入れ替わり立ち替わり誰かが作品を制作しているというカオスな状況。地元のおじいちゃんおばあちゃん達も見にきたり、その風景がすごく面白くて。東京では感じたことのない、地に足が着いた感覚を覚え、この空間と別府が好きになってしまったんです。

今では地元のおじさんが突然窓



PROFILE 勝 正光

1981年、大阪府出身。別府市在住。武蔵野美術大学空間演出デザイン学科を卒業後、2006年に行われた「GEISAI#10」では銅賞、佐藤可士和賞、電通賞を受賞。2009年の別府現代芸術フェスティバル「混浴温泉世界」の参加をきっかけに、清島アパートに移住。昨秋からは別府市立浜脇中学校の外部講師として美術を教えている。

を開けてアトリエの様子を見に来たり、地元の祭りに参加したり、そんな日常が当たり前になりました。「最近では、絵画教室の講師や町内会の役員など役割が増えました」と勝さん。ここで出会う人や、日常の風景には「温泉が育むおらかな魅力」があり、その刺激的な毎日が創作意欲につながっていると教えてくれた。

鉛筆一本で描く勝さんの絵画には、別府に住む人や自然、伝説などが活き活きと描かれている。「これからも別府の物語を作品で翻訳し、発信していきたい」と、誰よりも深い別府愛を語る、柔らかな笑顔がとても印象的だった。

※わくわく混浴アパートメント／2009年に開催された、別府現代芸術フェスティバル「混浴温泉世界」のプログラムの中の1つ



鉄輪温泉

立ちのぼる鉄輪温泉の湯けむりを幻想的な彩でライトアップ。



国指定名勝 海地獄



別府海浜砂湯
(上人ヶ浜)



別府市竹細工伝統産業会館

関連情報

清島アパート

年に一度公募する、アーティストのためのシェアアパート

〈問合せ先〉
BEPPU PROJECT
TEL 0977-22-3560

緑豊かな山々や瀬戸内の青い海に囲まれた美しい景観に恵まれ、日本一の温泉湧出量、源泉数を誇り、全国有数の観光地として賑わうまちです。県内では大分市に次いで2番目となる約12万人の人口を有し、市内の大学で学ぶ約3千人の留学生が、市民と暮らしをともにする国際色豊かな都市としても成長を続けています。近年では温泉を活用した観光産業の振興を官民協働で推進する等、新たなまちづくりが進められています。

平成28年3月、連携協約を締結した大分都市広域圏では、大分県内7市1町（大分市、別府市、臼杵市、津久見市、竹田市、豊後大野市、由布市、日出町）がお互いに協力し、住民が安心して暮らしていけるような魅力的な地域づくりに取り組んでいます。



ARTIST ARTREK
No.07

地方に息づく豊かな文化を、
焼物を通じて多角的に展開



【USUKI】

USAMI
HIROYUKI

かつての郵便局をリノベーションし、白杵焼を手がける宇佐美さん。18年前、稼業を継ぐため大阪からリターン、作家活動しながら実家のレストランで使用する器や運にちなんだ特別料理のための器を制作していた。ある時、藩の御用達窯として10数年のみ開窯していた白杵焼の存在を知ることとなる。その幻の焼物に魅せられ平成27年から現代版・白杵焼の制作をスタート。それから5年目を迎えるステージは海外へ。白杵の老舗呉服屋さんに眠るアンティーク着物の生地と焼物を掛け合わせてシンガポールに輸出するプロジェクトを考案するなど、焼物のみならず多様な日本文化と組み合わせる海外へ発信。「スタッフが増え制作が安定してきた。インバウンドのブームに流されることなく焼物を媒介に白杵の歴史や文化、食を知ってもらいたい」と意気込む。

PROFILE
宇佐美 裕之

1977年大分県白杵市出身。陶芸家。高校時代は絵画、大学時代は陶芸の道に進む。6年間の大阪時代を経て家業を継ぐため帰郷。国宝白杵石仏のお膝元である深田地区でレストランを営む傍ら、陶芸家仲間と「白杵焼プロジェクト」を立ち上げ、今に至る。



国宝 白杵石仏

平成7年、磨崖仏では全国初、彫刻としても九州初の国宝に指定されました。

白杵市

恵まれた自然
素朴で人間味あふれる暮らし
日本の心が息づくまち



龍原寺・三重塔



ふぐ料理



ABOUT
USUKI



二王座歴史の道



久家の大蔵

戦国時代に大友宗麟の築いた丹生島城（白杵城）の城下町であり、国際的な商業都市として栄えました。明治維新を迎えるまで270年余り続いた稲葉氏の統治時代には、城を中心とした町の整備が行われ、現在の風情ある町並みは当時の面影が遺されたものです。現在は約4万人の人口を有し、西日本一の生産量を誇る味噌、醤油を中心とした醸造業や、基幹産業のひとつである造船業を中心とした産業が営まれています。

た場所に対しては、何も無い。という負の思いを抱えていたという。「東日本大震災以降、白杵に移住してくる人が増えた。彼らと交流するなかで皆、ここにはなんでもあり、と肯定的に見てくれる」と移住者によって地の良さを再確認したという。観光サービス業に身を置きながら白杵焼を発信する作家という立場、その両輪で今日まで駆け抜けてきた。来季はヨーロッパ進出の足がかりもできた。「焼物を作るだけではない、そこだけにとどまらない発信力が必要」と決意を新たにしている。



ARTIST ARTREK
No.08

日本古来の和綿を生産し、
衣の自給自足を目指す



【TSUKUMI】

IMAMURA YUMI

東京都在住、金融の仕事に携わっていた今村さんが、縁あって津久見に移住を決意したのは、台風18号で津久見市が水害に見舞われた2017年。地域おこし協力隊に着任する前だった。「これで諦めたら女がすたる」と思い移住を決断しました(笑)。

市の職員のご家族が車で買い出しに付き添ってくれたり、周りの助けもあり生活をスタート

なんのどかな風景だろう。段々畑からは津久見市民球場が望め、ゆったりと船が往来し、まっすぐ伸びる線路を電車がたまたま横切る。ここで和綿の種を植え、収穫し、糸車で紡いで糸を作るのは、津久見地域おこし協力隊の今村祐美さん。もともと日本古来の品種は200種類ほどあったという和綿だが、今では輸入綿に圧され経済自給率は限りなくゼロに近い。しかし今村さんのように細々と種を残すために栽培をしている人たちのおかげで、30種類程度の和綿が現存しているそうだ。

させることができたという。強い決意の奥には秘めた想いが溢れる。「身に付けるだけで幸せになる衣を作りたい。歩みは遅いですがどこかんな人がたまにいてもいいかなって」。地域の困りごとを和綿で解決すべく、耕作放棄地にて除草剤に頼らない栽培で収穫、紡いで衣を作るところまで一貫して手作業にこだわって、身に着けることを目標とする。みかんとセメントを産業とする小さなまちに、社会や地域に根ざしたエシカルな種を蒔く。その小さな芽がこれからふわっと、しかし着実に芽吹いているのを感じた。



PROFILE 今村 祐美

2017年9月に津久見市地域おこし協力隊として移住。東京では金融の仕事に携わる傍ら、空き地で綿花の栽培にも挑戦。編み物やダーニングの手仕事を得意としており、現在はワークショップを不定期で開催しながら和綿栽培から衣作りを目指すべく動いている。



四浦半島の河津桜

5000本を超える河津桜が鮮やかに半島を彩ります。

(c) タケウチトモユキ

津久見市

おおらかで
豪快な人柄が出迎える
自然豊かなまち



ひゅうが丼



津久見扇子踊り



ABOUT
TSUKUMI



つくみん公園



つくみイルカ島

温暖な瀬戸内海沿岸に位置し、風光明媚な自然環境と豊かな産業資源を有するまちです。江戸時代から明治時代にかけてみかん栽培や石灰業を中心に栄え、大正から昭和の時代には市のシンボリックな存在である保戸島を中心としたまぐろ漁業も盛んに行われました。現在の人口は約1・7万人であり、全国有数の生産量を誇る石灰石・セメント産業や漁業等の産業振興をはじめ、安全・安心なまちづくりや観光振興にも取り組んでいます。

津久見市支援策

移住者居住支援事業補助金

移住される方に対する奨励金や、引越補助など

新婚世帯・子育て世帯家賃等補助金

賃貸住宅に入居される新婚子育て世帯の方への家賃補助など

〈問合せ先〉 津久見市役所 商工観光・定住推進課
TEL 0972-82-2655



作品名「Frill 09」2019年製作
photo by 瀧 忠之

NAKATOMI HAJIME

世界中に発信する作品作りの拠点は、中学校の旧校舎

ARTIST ARTREK
No.09

世界中に発信する
作品作りの拠点は、
中学校の旧校舎



【TAKETA】



岡城跡

瀧廉太郎が作曲した歌曲『荒城の月』のモチーフとなった城跡。



白水の滝



白水ダム



くじゅう花園



ラムネ温泉館

大分県の南西部に位置し、くじゅう連山、阿蘇外輪山、祖母山麓の豊かな自然に囲まれています。岡城を中心に古くより城下町として栄えたため、その城跡等文化資源の存在から、自然のみならず歴史を感じることもできる趣あるまちです。現在は約2・1万人の人口を有し、一日に数万トンの湧出量を誇る名水や肥沃な大地、夏季の冷涼な環境を活かした農業や畜産、炭酸泉を誇る長湯温泉をはじめ国民保養温泉地の指定を受けている竹田温泉群や四季折々に表情を変える久住高原等を活用した観光産業がまちの基幹産業となっています。

竹田市支援策

竹田総合学院 TSG

作家向けインキュベーション型工房

アーティスト・イン・レジデンス

滞在場所、制作場所の紹介

〈問合せ先〉竹田市役所 企画情報課 TEL 0974-63-4801



PROFILE 中臣 一

1974年大阪府生まれ、竹藝家、パンプアーティスト。大学卒業後、大分県立竹工芸訓練センター学んだ後、竹藝家に師事。独立後、庄内町を経て2012年に竹田市へ移住。2014年の竹田総合学院スタート時から入居し、創作の拠点にしている。
<http://www.h-nakatomi.com>

竹田市の旧竹田中学校舎を、作家などが創作活動を行う工房として提供している「竹田総合学院(TSG)」。県内外の有名ホテルのアートワークを手がけ、ポストン美術館をはじめ世界各地の美術館やギャラリーで作品を発表している竹藝家中臣一さんは、ここを制作の拠点に選んだ。

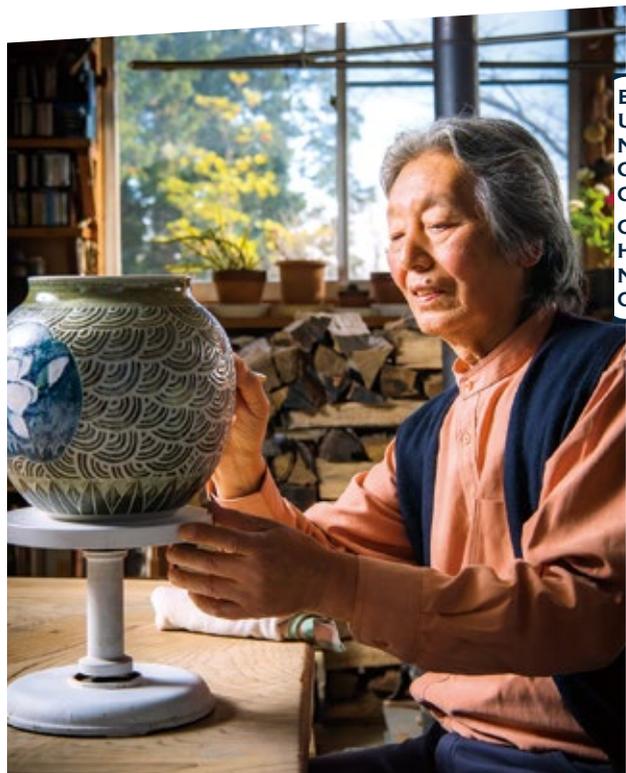
中臣さんが制作しているのは、竹のオブジェ。作品が大きいこともあり、アトリエの確保が難しかった。そんな時、市の政策としてクリエイティブ人材を受け入れ始めた竹田市からの誘いを受け、移住。古民家を改修した自宅兼アトリエで創作していたものの、自宅の一室では手狭になり、市に「いい場所があれば貸してほしい」と要望を出していたところ、3年間使われていない中学校舎の使い道を模索していた市と方向性が合致し、TSGが誕生した。最初の居住者となった中臣さんは「景色が一番いいところを選びました」

と、2階の音楽室に入居。綺麗で広々としているため、大きなオブジェの制作にもってこいだ。「いろんなアーティストや工芸家がいるので、その方々とながりのあるギャラリーの方とか、雑誌の方などの出入りも多いいんです。そういう意味では、これまでの自分たちの世界とはまた違った人たちとも知り合うことができるようになったと思います。作品や制作のスタイルは変わっていないんですが、視野は広がった気がしますね」。家族と暮らす古民家からも車で5分。渋滞もなく、通勤ストレスのない環境も気に入っている。



ARTIST ARTREK
No.10

『朝倉文夫記念館』は、
朝地町の強みですよね



BUNGO OHNO

SATO JYUKO

「あれが祖母傾、あっちに見えるのは阿蘇です。いいところでしょう?。『朝倉文夫記念館』からほど近い、見晴らしのいい山中に『椿窯』を構える佐藤珠幸さんは、1993年から朝地町で作陶を続ける、アーティスト移住の大ベテランだ。静岡県焼津で窯を開き活動が続いていたが、40歳のころ「自然の中で仕事をしたいくなって」と、竹田市に移住。そして4年後、当時「やすらぎと芸術の里」づくりをすすめていた朝地町からの誘いを受けて、この地に移り住んだ。「朝地町の強みですよね」という、1991年にできた『朝倉文夫記念館』や館内に備わっていた窯も、移住の後押しになったとか。移住後は、毎年『朝倉文夫記念文化ホール』で展覧会を開いている。以前は東京など県外にも度々出向いていたが、現在は、東京で展覧会を開くのは年に1度。創作について、「青磁はライフワーク。これは一生続ける」としながらも、陶芸だけに



PROFILE 佐藤 珠幸

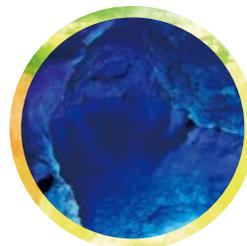
1950年福岡県生まれ、陶芸家。陶磁器を学び製陶所で働いた後、静岡で窯を起こす。1993年朝地町に移住、「椿窯」で作陶を続けながら地域活動にも携わる。

止まらず、陶額（陶器の額）や絵画、竹芸など、ジャンルを広げている。また「喫茶店を開くのも夢だった」と、竹田市の古民家を移築したギャラリーは、作品が並べられているだけでなく気軽にコーヒーを飲める喫茶スペースとしても開放。移住時から町おこしの活動にも積極的に参加し、今は町内に紫陽花を植える活動も行っている。「今はもう、ほとんど余生じゃないけどね。町おこしのために一生懸命やっています。今夜も会議があるんですよ」と微笑む横顔は、とても若々しい。



原尻の滝

平地に突現現れる幅120m、高さ20mの滝。東洋のナイアガラと呼ばれています。



稲積水中鍾乳洞



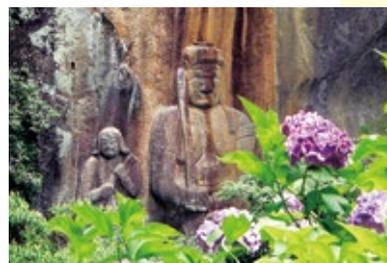
用作公園



ABOUT
BUNGO
OHNO



朝倉文夫記念館



普光寺磨崖仏

大分市南部に隣接し、2015（平成27）年には中九州横断道路も開通しており、豊かな自然環境と利便性をあわせ持った人口約3・5万人のまちです。大野川水系の豊かな水と、四季を通じて温暖な気候を活かした県内屈指の畑作地帯を形成し、古くから農業を基幹産業として発展してきました。さらに本地域は、阿蘇溶結凝灰岩より生成した渓谷や滝等の特異的な地形に加え、磨崖仏や石橋等の地質遺産も有し、2013（平成25）年にはおおい豊後大野ジオパークとして認定されています。



ARTIST ARTREK
No.11

ここでもしか描けない絵本を
これからも描き続けたい

<絵本の情報>「だいおういかのいかたろう」鈴木出版 2014年刊行
「しんごうきピコリ」あかね書房 2017年刊行

THE CABINCOMPANY



【YUFU】



由布岳（朝霧）

秋から冬にかけての早朝に発生しやすい、幻想的な湯布院盆地の朝霧。

▲ 由布市
大自然を満喫！
日本屈指の人気を誇る
観光地、湯布院へ。



由布院駅
由布院駅アートホール



観光辻馬車



湯平温泉の石畳

温泉湧出量、源泉数とも全国2位を誇る由布院温泉や、豊後富士とも呼ばれ山岳信仰の対象として崇められている由布岳、湖面から湯気が立ち上る金鱗湖等魅力的な観光資源を備え持ち、日本屈指の人気を誇る観光都市です。現在の人口は約3・5万人、大分県のほぼ中央部に位置し、交通の利便性から大分市のベッドタウンとしての役割も果たしています。



おおつる交流センター（竹工芸体験の模様）

由布市支援策

移住者等居住支援事業

- ①空き家バンク利用での（仲介・改修）支援
- ②引っ越し・家賃補助（県外からの移住の場合のみ）

移住体験事業

移住を検討されている方を対象に移住体験ツアーを実施

〈問合せ先〉 由布市役所 総合政策課
TEL 097-582-1111（内 1242）

2014年の絵本作家デビュー以来、多数の絵本を出版し続けている『ザ・キャビンカンパニー』作品の中には、中国、台湾、フランス語に翻訳されたものもあり、今では世界各国でも彼らの絵本が読まれている。大学4年生の時、湯布院で行われた作品展に参加したことをきっかけにユニットを結成。現在アトリエにしている廃校に出会い一目惚れし、地元の人たちに利用の相談をした。2年に一度開催されるお祭り「チルドレン・フェスティバル」では、近所の方々が主体となり一緒にイベントを作り上げている。「野菜の差し入れをいただいたり、地域の人たちはみんなとても温かいです。ここをアトリエにして本当によかったと思います。」



PROFILE
ザ・キャビン
カンパニー

阿部健太郎(1989年由布市出身) 吉岡紗希(1988年大分市出身)の絵本作家ユニット。由布市の廃校となった小学校をアトリエに改装し、創作活動の拠点としている。デビュー作「だいおういかのいかたろう」で第20回日本絵本賞読者賞受賞。(※アトリエの見学は現在行っていません)

絵本には、ヤシの木がよく登場するんです。寒い地域で活動する作家さんの作品には雪がたくさん出てくるように、その土地ならではの自然や空気が作品に反映されるんだと思うんです。そこにいるからこそ描けるものがあると思うので、僕たちはこの場所ですっと活動が続けたいですね。彼らがいっつも大切にしていること、それは、「子どもの頃感覚を忘れないこと」。大人が読むとどこか懐かしくて、子どもたちは元気になれる。無垢で純粋な作風には、そんな彼らの想いがたくさん詰まっている。

▲ 日出町

「都会」過ぎず
「田舎」過ぎない
暮らしを愛せるまち



大蘇鉄 (松屋寺)

松屋寺本堂の前庭にそびえる樹齢約700年の大蘇鉄。



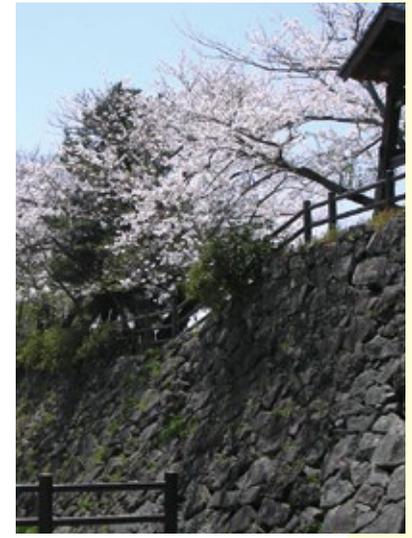
ABOUT
HIJI



致道館



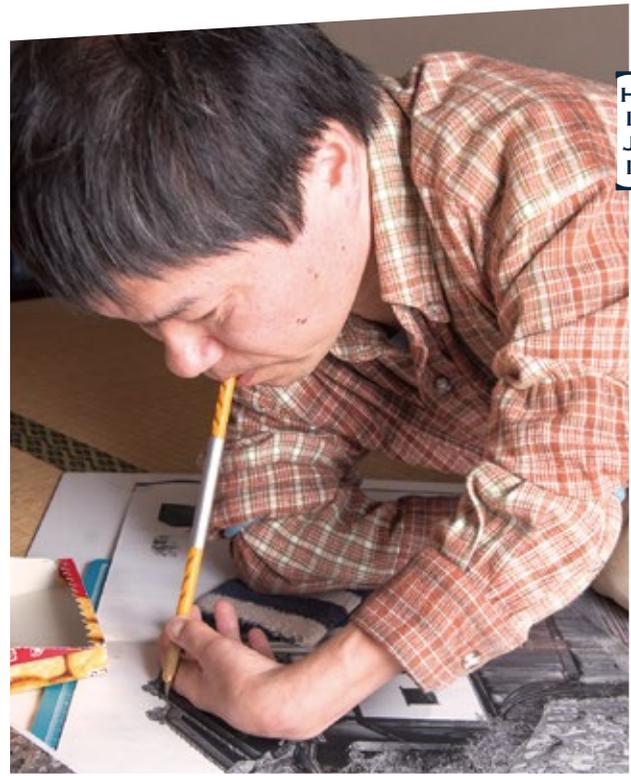
城下カレイ



日出城址

国東半島の南端部、別府湾沿岸に位置し、大分自動車道、宇佐別府道路、大分空港道路、日出バイパス等の交差する交通の要所となっています。1964(昭和39)年には大分地区新産業都市開発地域に指定され、高度技術産業の集積が進んだことから、以降人口は増加傾向にあり、現在の人口は約2・8万人です。江戸時代に築城された日出城の城下町として栄えた歴史から、城址周辺や、かつてにぎわった豊後と豊前を往來するための山岳道、江戸の將軍にも献上されていた城下かれい等の観光資源も多数有しています。

【HIJI】



ARTIST ARTREK
No.12

自分達のアート活動を
伝え続けたい



NAKASHIMA SHINICHI

豊かな表情の人物や、迫力と可愛らしさを表現した動物、雄大で情緒ある風景。中島眞一さんが創り出す切り絵の繊細で緻密な世界は、老若男女を問わず幅広い層の人達を魅了している。両腕と両足に先天性の障がいを持つ中島さんが切り絵と出会ったのは中学生の頃。地元の夏祭り「六月燈」で、仲間と一緒にチームを組んで灯籠を作り、その出来栄を競い合うという寮のイベントがきっかけだ。「障子紙に絵を描いて、色鉛筆で色を塗って、というのが大半な中、どうやったら目立つかを考えたら切り絵になった」。皆が色とりどりの灯籠を作った中、中島さんのチームはあえて切り絵の「白と黒」の陰影だけで制作。その発想が功を奏して優勝という評価をもらった。それが、中島さんという切り絵作家が生まれるきっかけとなった最初のできごとだ。1枚に約2ヶ月かけながら口にくわえたアートナイフで作品を作



PROFILE 中島 眞一

1970年生まれ、鹿児島県日置市出身。ホンダR&D太陽(株)事業部に所属。速見郡日出町の自宅が制作現場で、膨大な数の作品も保管している。

り出し、公共施設などでの個展や県内各地の作家が参加する「元氣」での活動など、積極的にアートと関わってきた中島さん。2018年に国民文化祭と同時開催された「第18回全国障害者芸術・文化祭おおいだ大会」にも、切り絵作家として参加した。「健常者と障がい者の枠を越え、互いの作品を同時に見る機会をもたらえたこと、そして、まだまだあまり認知されていない障がい者のアート活動を、多くの人に知ってもらえたことに大きな手応えを感じた。これが一過性のものでなく、将来に続くきっかけになるよう、人任せでなく自発的に行動を起こしていきたい」。



WONDERFUL ART
FOUND IT!!!

ARTREK
Move in OITA



大分市企画部文化振興課

大分県大分市荷揚町 2-31

TEL 097-537-5663

bunkoku@city.oita.oita.jp